

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ③ 教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立に役立てる。

(2) 調査内容

① 教科に関する調査：()内は問題数

- 小学校：国語A(全12問)、国語B(全8問)、算数A(全14問)、算数B(全10問)
理科(16問)
- 中学校：国語A(全32問)、国語B(全9問)、数学A(全36問)、数学B(全14問)
理科(27問)

※A…主として「知識」に関する問題 B…主として「活用」に関する問題

② 質問紙調査

- 児童生徒質問紙・・・児童生徒に対する調査(学習意欲、方法、環境や生活の諸側面等に関する調査)
- 学校質問紙・・・学校に対する調査(指導方法等に関する調査)

(3) 調査対象

- ① 小学校(義務教育学校前期課程を含む)：53校(6年生 2,716名)
- ② 中学校(義務教育学校後期課程を含む)：28校(3年生 2,971名)

2 調査結果の公表

- 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)
- 各教科における結果と課題及び改善策
- 質問紙調査の結果と改善策(本市の特徴を表す項目を抜粋)

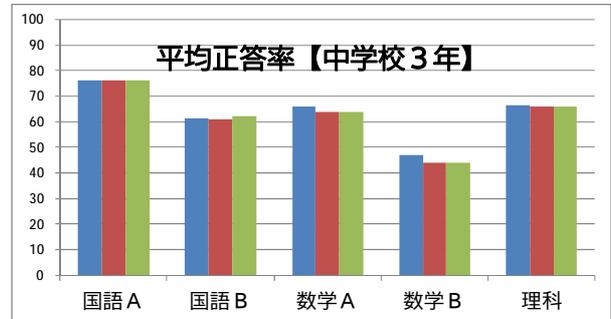
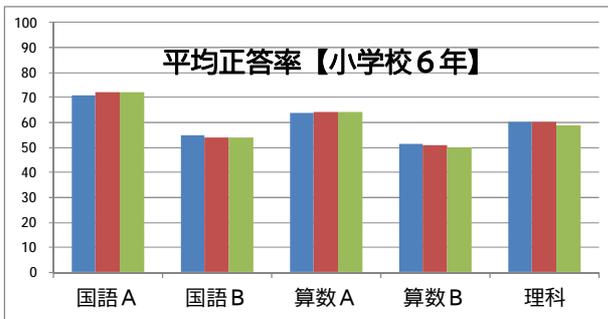
学校においては、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に問題解決する資質や能力の育成のほか、豊かな人間性やたくましい体力の育成にも取り組んでおり、大きな成果をあげているところです。本調査の結果は、特定の教科の一部であり、学校における教育活動の一側面を表したものではありませんが、上記調査目的をふまえ、これからも保護者や市民の皆様と連携し本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

3 調査結果

(1) 結果概要

今回の調査で、小学校においては、国語Aが全国平均をやや上回っており、国語B、算数Aはおおむね全国平均と同程度で、算数B、理科においては全国平均をやや下回っています。中学校においては、国語A、国語B、理科はおおむね全国平均と同程度、数学A、数学Bは全国平均を下回っています。

(2) 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)



教科	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
問題数	12	8	14	10	16
全 国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%
福島県	72%	54%	64%	51%	60%
郡山市	72%	54%	64%	50%	59%

教科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
問題数	32	9	36	14	27
全 国	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%
福島県	76%	61%	64%	44%	66%
郡山市	76%	62%	64%	44%	66%

(3) 各教科における結果と課題、改善策

【小学校6年】

	結果	課題	改善策
国語 A (知識)	平均正答率は、全国をやや上回っています。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では全国比+2.4 で全国を上回っています。(昨年度「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国比+1.6)	相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題があります。また、文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題があります。	様々な状況で敬語を使う場面を設定した言語活動を多く取り入れます。また、文章を書く際に、主語と述語の関係に注意して、正しい文を書くようにするとともに、読む活動においても文と文、語と語の関係に着目する活動を意図的・計画的に設定します。
国語 B (活用)	平均正答率は、全国と同程度です。「読むこと」の領域では全国比+0.4 で全国と同程度です。(昨年度「読むこと」は全国比+2.7)	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題があります。また、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題があります。	具体例をあげて、根拠や理由を明確にした文章を書く活動を多く取り入れます。条件を踏まえた文章になっているかどうかを検討したり、友だちと吟味し合ったりする活動を工夫するとともに、話し合いの後に、個人で振り返りを行い、自分の考えをまとめる活動を設定します。
算数 A (知識)	平均正答率は、全国と同程度です。「図形」の領域では全国比+1.6 で全国をやや上回っています。(昨年度「図形」は全国比-0.5)	「数と計算」の領域では、小数の除法の意味についての理解に課題があります。「量と測定」の領域では、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解に課題があります。	小数についての計算の意味や計算の仕方を言葉、数、式、図、数直線を用いて考える活動を設定します。また、1匹当たり、1m ² 当たり等、何を求めるのかを明確にして立式に結び付けられるよう、様々な場面を想定した問題に取り組む活動を多く取り入れます。
算数 B (活用)	平均正答率は、全国をやや下回っています。「図形」の領域では全国比+1.0 で全国をやや上回っています。(昨年度「図形」は全国比-3.4)	「数量関係」の領域では、日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることに課題があります。また、示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理して、条件に合うかどうかを判断することに課題があります。	目的に応じてグラフを作り、複数のグラフを関連付けて考察する学習の機会を多く取り入れます。また、複数の情報を解釈して数理的に処理したり、様々な情報を表やグラフなどに表して考察したりする活動を設定します。
理科	平均正答率は、全国をやや下回っています。「エネルギー」の区分では全国と同じ、「生命」の区分では全国比-0.1 と同程度です。短答式の問題では、平均正答率が全国比+4.8 で全国を上回っています。	予想から得られる結果を見通して実験を構想することに課題があります。また、実験結果を基に、分析して考察することに課題があります。既習事項を活用し、実際の現象に適用して考察することに課題があります。	実験を行う前に、予想から得られる結果の見通しなどを検討する時間を設定します。また、実験結果を整理して、考えの根拠となる事実を明確にすることで、事実と解釈を分けて表現できるようにします。既習事項や生活経験と関係付けて話し合う場を意図的に設定し、自然の事物・現象を捉えることができるようにします。

【中学校3年】

	結 果	課 題	改 善 策
国語 A (知識)	平均正答率は、全国と同程度です。「書くこと」の領域では全国比+1.1 で全国をやや上回っています。(昨年度「書くこと」は全国比+0.8)	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題があります。	身の回りの物事について具体的な内容をもとにした文章を書き、相手に適切に伝わるための語順や構成を検討する時間を設定します。推敲の観点を明確にして、自分の書いた文の語と語の関係が正しいかどうかを振り返る活動を計画的に実施します。
国語 B (活用)	平均正答率は、全国と同程度です。「話すこと・聞くこと」で全国比+0.6、「読むこと」の領域で全国比+0.5と全国と同程度です。(昨年度「話すこと・聞くこと」は全国比+1.7、「読むこと」は全国比+0.5)	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題があります。また、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて文章を書くことに課題があります。	目的に応じて文章を的確に読み、自分の考えを表現するために、根拠と理由を明確にし、複数の情報を関連付ける活動を工夫します。また、言語活動の目的を明確に捉えさせるとともに、自分の考えを互いに伝え合い、適切に表現できているか確認し合う活動を計画的に設定します。
数学 A (知識)	平均正答率は、全国を下回っています。「数と式」の領域では、全国比+0.3で、全国と同程度です。(昨年度「数と式」は全国比-1.9)	「数と式」の領域では、等式を目的に応じて変形することに課題があります。「関数」の領域では、一次関数の意味の理解及び X の値の増加に伴う Y の増加量を求めることに課題があります。	等式の変形では、等式の性質などを基に、正しく変形する活動を多く取り入れます。また、具体的な場面において、関数関係を見出し、考察する学習を意図的・計画的に設定します。
数学 B (活用)	平均正答率は、全国を下回っています。「関数」の領域では、全国比-1.5で、全国をやや下回っています。(昨年度「関数」は全国比+0.4)	「数と式」の領域では、事柄が成り立つ理由を根拠を立てて説明することに課題があります。「図形」の領域では、条件を変えた場合についての証明の一部を書き直すことに課題があります。	数に関する事象を考察する際に、数学的に説明したり、問題解決の過程を振り返って考えたりする活動を計画的に設定します。また、図形の証明問題において、証明を読んで新たにわかる事柄を考えたり、さらに発展的に考えて証明したりする活動を多く取り入れます。
理科	平均正答率は、全国と同程度です。「化学的領域」は全国と同じ、「生物的領域」は全国比+0.4で全国とほぼ同程度です。水溶液の濃度を求めることについては、全国比+7.0と上回っています。	自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することに課題があります。また、既習の問題解決の知識・技能を活用して実験を計画することに課題があります。	自然の事物・現象における、「変化すること」と「原因として考えられる要因」を整理し、原因を明らかにできる実験を計画する学習場面を意図的に設定します。また、他の分野や領域で身に付けた知識・技能を活用して、多面的な視点に立って考える学習活動を多く取り入れます。

(4) 質問紙調査の結果と改善策

① 児童生徒質問紙

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%を上回っている主な項目】

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.4%	96.8%	95.2%	95.5%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.9%	95.2%	94.7%	94.9%
朝食を毎日食べていますか	95.3%	94.5%	93.6%	91.9%
家で、学校の宿題をしていますか	96.5%	97.1%	89.5%	91.6%
学校のきまりを守っていますか	89.2%	89.5%	93.5%	95.1%
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	90.5%	88.8%	91.7%	90.3%
観察や実験を行うことは好きですか	91.1%	89.8%	86.8%	82.1%
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	86.2%	86.2%	87.2%	86.6%

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%を下回っている主な項目】

(小・中どちらかあるいは両方が50%を下回っている主な項目)

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	66.5%	64.7%	49.9%	45.4%
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	65.8%	64.4%	39.8%	38.7%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	51.7%	49.9%	29.7%	28.1%
今住んでいる地域の行事に参加していますか	28.9%	26.8%	35.3%	45.6%
地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	37.4%	41.6%	21.2%	25.5%
新聞を読んでいますか	16.3%	19.9%	11.4%	13.9%

90%以上の児童生徒は、朝食を食べてから登校していることや多くの児童生徒が家で宿題をしていること、毎日同じくらいの時刻に起きていることから、基本的な生活習慣が身に付いていることがうかがえます。90%以上の児童生徒は、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っており、90%に近い児童生徒が学校のきまりを守っていると答えています。また、多くの児童生徒はテレビやインターネットのニュースを見るなど日々の社会情勢にも関心をもっていることがわかります。

算数や理科の学習において、学習したことを日常の生活の中でどのように活用することができるかについて考えさせる場を設定していくようにします。学校図書館の活用を含めた読書活動の充実、本市で行っている「新聞活用事業」などにより、新聞を読む習慣の育成に努めてまいります。

② 学校質問紙

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%を上回っている主な項目】

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
職場見学や職場体験活動を行っていますか	100.0%	99.9%	100.0%	99.9%
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	98.1%	97.6%	100.0%	96.1%
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	98.1%	99.3%	100.0%	98.1%
調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	100.0%	99.0%	96.5%	97.9%
調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、前年度に、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか	100.0%	96.1%	96.4%	97.7%
前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	90.6%	69.5%	100.0%	76.5%

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が50%を下回っている主な項目】

(小・中どちらかあるいは両方が50%を下回っている主な項目)

質問事項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	49.1%	45.7%	82.1%	76.6%
調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	34.0%	49.0%	32.2%	33.0%

職場見学や職場体験活動は、全小・中学校で行っています。各学校では、児童生徒一人一人のよい点を見つけ認める取組を行い、児童生徒の自己肯定感を高めるよう努めています。また、教職員の校内研修を組織的、継続的に行い、活用力を高めるための工夫をする等の授業改善に取り組んでいます。今後も、中学校区ごとの小中学校相互の指導方法の共通実践や学びの定着度、つまずきなどを共有するとともに、次年度に向けて、より実効性のある小中一貫・連携の推進を図ってまいります。また、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っているかについては、小学校・中学校ともに30%程度となっており、図書館等の計画的な利用を図ってまいります。